

## 2. 認知症医療

国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター（NCGM）

### 【現地の状況やニーズなどの背景情報】

タイの高齢化率は約12%を超え、急速に進んでおり、それに伴い認知症が増加し、認知症の医療とケア体制の構築は喫緊の課題となっている。

### 【活動内容】

日本の認知症医療やケア体制は地域包括ケアや、介護保険制度により、他国に比し、充実している。国立長寿医療センターではタイの Mahidol 大学と保健省と交流し、認知症の専門家派遣とタイ保健省のメンバーを含む7名の研修生受入を行った。

### 【期待される成果や波及効果等】

タイの Shiriraj 病院で講演会と意見交換会を開催した。日本側メンバーはタイの保健省の次官らと会談を行った。その結果バンコクの郊外で認知症の医療と長期介護のモデル事業を行うこととなり、国立長寿医療センターがワーキングの主要メンバーとして入り、アドバイスを継続的に行うこととなった。タイの認知症医療体制の進展に繋がる事業となった。

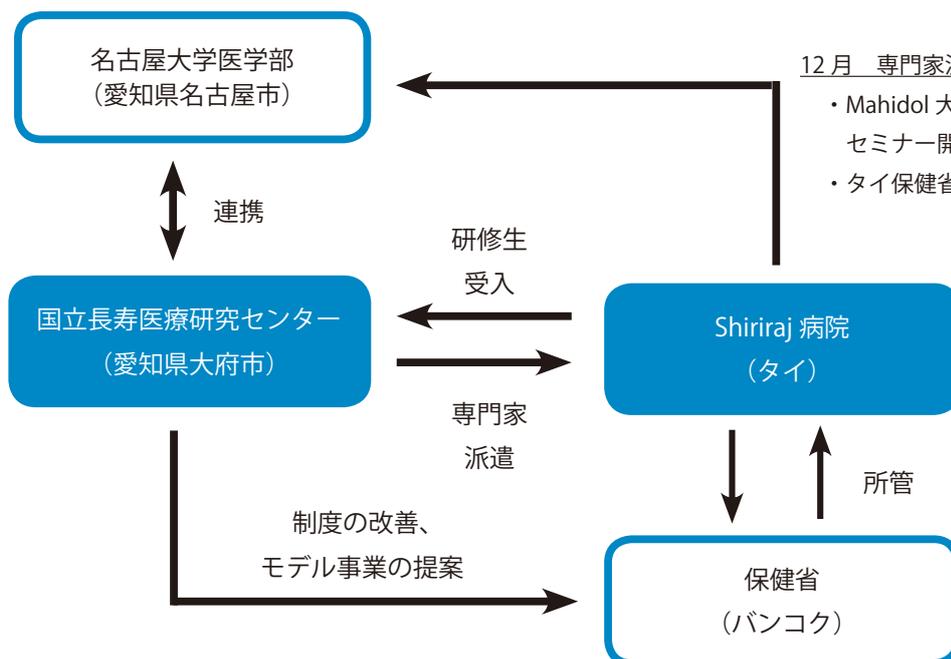
### <研修実施結果>

#### 11月 研修生受入 (7名)

- ・日本の認知症医療とケア体制
- ・日本の病院と介護施設の視察

#### 12月 専門家派遣 (4名派遣、200名参加)

- ・Mahidol 大学で認知症に関するセミナー開催
- ・タイ保健省での会議開催



## 事業目的

- ・日本の認知症医療とケア、制度を、タイの専門家に周知し、相互理解を深めること
- ・タイの認知症医療とケアの質の向上に資する事業を行うこと
- ・本事業は認知症に限定すること
- ・タイ政府との交流も含めること

## 事業の成果

- ・タイ政府・シリラート大学の代表7名に日本の実情を紹介した
- ・シリラート大学に4名を派遣し、認知症の医療・研究・リハビリテーション・看護講義の講義を行い、意見交換を行った。
- ・認知症の医療と長期介護に関する英文テキストの作成を行った
- ・タイの保健省の高官と面談し、日本の認知症医療と予防の実情を紹介した
- ・タイ政府とシリラート大学との共同研究ならびにモデル事業の推進を行うことになった、今後の事業展開が期待される
- ・在タイ日本大使館の健康長寿を紹介するイベントに参加することとなった

## 交流・派遣事業



## 今後の課題

- ・ タイの専門家の招聘と派遣を計画に沿って実施した。
- ・ NCGGとシリラート病院、タイ保健省との会合により、継続的な連携を行う体制を構築すること  
(モデル事業のイメージ: 認知症早期診断体制の構築、予防事業の支援、ケアマネとの多職種連携推進、介護者支援、人材育成等)
- ・ 平成28年3月4-5日在タイ大使館の健康長寿に関する事業へ協力すること
- ・ 平成28年度以降、シリラート病院との共同事業として、認知症をふくむ長期介護モデル事業をタイ郊外で行う計画であること
- ・ 本事業を継続すること